



2021・2020

ノウフク アワード

NOUFUKU AWARD



ノウフク・アワード2021に寄せて

農福連携等応援コンソーシアム

会長 皆川 芳嗣



農福連携等応援コンソーシアムの会長の皆川です。コンソーシアムが立ち上がって2年が経過しました。新型コロナ感染症への対処に迫られ、多くの人々がリアルで集まるフォーラムが実施出来ないなどコンソーシアムの活動には大きな制約がありました。しかし、ノウフクを広げ深めたいという関係者の熱意はそんな制約を軽々と乗り越えて新しく繋がり胎動を始めています。その具体例の第一がノウフク・ラボです。ノウフク・アワード2020のグランプリに選ばれた鹿児島県の白鳩会の中村理事長がアワード受賞の記念フォーラムで話された一言に触発されて始まった農福の現場の困りごとを解決するプロジェクトです。「トイレ」「ウェアラブル(携帯型体感センサー)」「ショップ」の3つが現在走っています。ノウフク事業を实践されている関係者に加え、得意技をお持ちの民間企業の方、大学の研究者などがワイワイガヤガヤWebでワークショップを開き課題解決の糸口を探っています。興味をお持ちの方々には奮ってコンソーシアムに加入しラボにご参加いただくことを期待します。ノウフクは我々社会の課題の先進地です。ラボで見出した解決策は広く他分野にも応用できます。

次がノウフク・アワード2021です。昨秋に募集を始めたところ、前年度を上回る205団体から応募がありました。審査委員会による厳正な審査を経て、静岡県「京丸園」と京都府「さんさん山城」の2団体がグランプリに、また、人を耕す、地域を耕す、未来を耕すとの観点から11団体が審査員特別賞・優秀賞に選ばれました。さらに2021では農福連携の更なる広がりを目指し「フレッシュ賞」「チャレンジ賞」も選考されています。どの団体も素晴らしい取り組みをされています。詳しくは本誌をご覧ください。

SDGsが目標年とした2030年は間近です。地域共生社会の実現という夢に確実に近づく道はノウフクを広め深めることと信じています。皆さん共に歩んでいこうではありませんか。



2021・2020

ノウフク
アワード

NOUFUKU AWARD

ノウ フク



2021

ノウフク
アワード

NOUFUKU AWARD
2021

ノウフク・アワード2021 概要

審査基準及び新たな表彰部門の設置

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティである「耕すみんなを応援する」に連動させ「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に据えるとともに、取組主体別に評価できる仕組みを導入し、評価を行うことにしました。

また、優秀賞とは別に、優秀賞のレベルには至らないものの、①新たに取組開始5年以内の団体等に対してフレッシュ賞を設けるとともに、②高齢者や生活困窮者等との連携や、水福、林福、地域の伝統産業との連携など、新たなノウフクに取り組んでいる団体等に対してチャレンジ賞を設けることとしました。

応募件数

応募期間については、令和3年9月16日(木)から令和3年11月12日(金)までとして、ノウフクWebなどを通じて広く応募し、全国から205団体の応募がありました。

各賞の選定経過

各賞の選定に当たっては、令和3年12月14日に審査委員会を開催し、各賞を選定しました。グランプリについては、農業法人として、農福連携のモデル的な取組を行っている「京丸園」と、聴覚障害者が集い「京の伝統野菜」を守り地域活性化に貢献している「さんさん山城」の2団体等をW受賞という形で選定しました。

また、審査員特別賞については、「人を耕す」の部として、群馬県の「社会福祉法人 ゆずりは会」を、「地域を耕す」の部として、新潟県の「NPO法人立野福祉会」を、「未来を耕す」の部として、「株式会社菜々屋」をそれぞれ選定するとともに、先進的・モデル的取組として、優れた取組を行っていると評価された、「安芸市農福連携研究会」についても、審査員特別賞として選定しました。

この他、フレッシュ賞・チャレンジ賞についてもそれぞれ6団体を選定しましたが、今回残念ながら、賞に選出されなかった取組についても、地域を牽引する素晴らしい事例が多く見られ、農福連携に取り組もうとする団体等の模範となるものであり、今後に期待を抱かせるような取組が数多くありました。

ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体・企業や個人（以下「団体等」という）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものであり、こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に設立されました。

受賞一覧

グランプリ

京丸園 株式会社（静岡県浜松市）

さんさん山城（京都府京田辺市）

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

審査員特別賞「地域を耕す」

特定非営利活動法人 立野福祉会（新潟県佐渡市）

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）

審査員特別賞

安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

優秀賞

社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里（青森県おいらせ町）

特定非営利活動法人 一粒舎（千葉県木更津市）

株式会社 イシイナーセリー（三重県鈴鹿市）

株式会社 いずみエコロジーファーム（大阪府和泉市）

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて（和歌山県紀の川市）

一般社団法人 STEPUP CoCoRo 事業所（宮崎県宮崎市）

株式会社 リーフエッチ あまみん（鹿児島県大島郡龍郷町）

フレッシュ賞

新宿区 障害者福祉事業所等ネットワーク（東京都新宿区）

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎（長野県筑摩郡筑北村）

ちゅう
CuRA!（新潟県新潟市）

株式会社 JAぎふ はっぴいまるけ（岐阜県岐阜市）

ゆうじや
遊士屋 株式会社（三重県伊賀市）

ウィルチャーファーム（沖縄県沖縄市）

チャレンジ賞

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団（青森県東津軽郡平内町）

福島県立 大笹生支援学校（福島県福島市）

帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム（千葉県我孫子市）

社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス（神奈川県平塚市）

社会福祉法人 太陽福祉会 菜の花作業所（和歌山県御坊市）

社会医療法人 正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

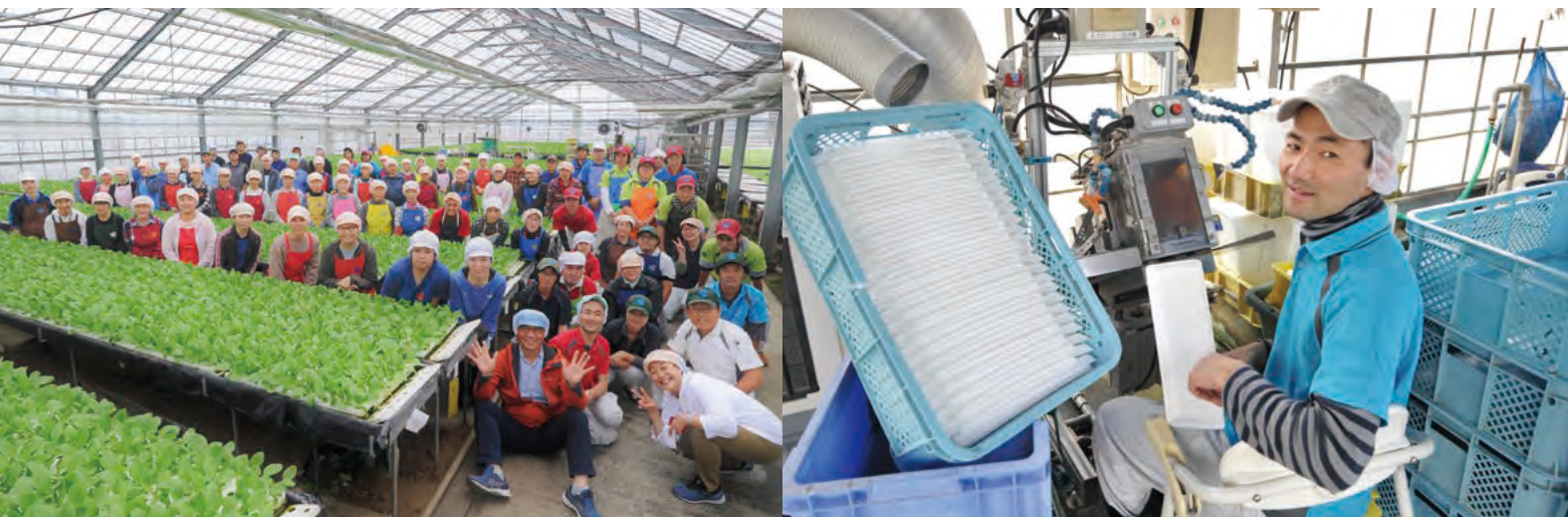
京丸園株式会社（静岡県浜松市）

農作業や施設環境を障害者目線で工夫し、
老若男女が集まるユニバーサル農業を県内外に発信しています。

概要

1994年、規模拡大のための求人に応募した障害者をきっかけに農福連携を始めました。1997年に障害者雇用をはじめた当時は、家族6人とパート4人でしたが、2021年には、16～85歳の94人（うち障害者22人）が働く農園となりました。

静岡県と協力し、NPO法人ユニバーサル園芸ネットワークを設立。事務局としてユニバーサル農業の研究や普及啓発を行うことで、特例子会社と地域農業を連携するビジネスモデルを構築しました。浜松市に特例子会社を誘致し、7件の農園と連携するネットワークを作りました。



成果

農林水産業

- 作業を分解し、マニュアルを作った結果、多様な人が働きやすくなり、労働力の確保が円滑になりました。
- 地域農業者の経営改善のため農業者と特例子会社や特別支援学校・福祉施設とのマッチングを支援しています。

障害者等

- 採用時に障害者生活・就労支援センターや、特別支援学校、家庭と話し合い、能力と給料を一致させています。能力が最低賃金に満たなくても働きたいという意欲がある人を採用するため、労働基準監督署に最低賃金除外申請を提出しており、雇用する22人のうち8人が除外申請対象者です。個別の育成プログラムで給料の向上に努めています。

地域

- 農福連携が農業経営を改善し、強い農業を実現できることを教育機関や他分野の企業で発信しています。
- 静岡県農業法人協会、静岡県農業経営士、浜松市認定農業者協議会の活動を通じユニバーサル農業とGAPを推進しています。



京丸園株式会社

鈴木 厚志 代表

—— グランプリ受賞おめでとうございます。率直なお気持ちを教えてください。

ありがとうございます。公的な場で認めてもらって嬉しい反面、より良いものを仕立て上げていかなければという緊張もあり、身が引き締まる思いです。

—— 京丸園では農福連携の概念をさらに押し広げ、ユニバーサル農業を掲げていらっしゃいますが、障害者雇用に取り組む上で思いも寄らぬ効果を感じることはありますか。

人手が欲しくて求人を出したときに、バリバリ働ける人はひとりも来ませんでした。そのため障害者を頼ることになるのですが、障害者が働ける場を作ったら、高齢者が働けることがわかってきました。高齢者が働けるようになったら、女性が働きやすくと集まってきました。女性が集まるようになってきたら、若い人たちが……。結局、僕らが欲しかった人たちが集まる農園になったんですね。若い人たちに「なんでうちの農園を選んだの」と尋ねると、「農業は大変なイメージがあったけど、障害者が働けるなら私たちにも働けるんじゃないかと思った」と答えたんですよ。障害者が働いていることが、人を呼び寄せてくれていました。

—— 多様な人が働ける環境を作ることについて、農業に限らず企業の経営者に対するアドバイスはありますか。

法定雇用率の達成が半数にとどまるように、障害者雇用は進んでいません。ビジネスにおいて障害者をリスクだと捉えているからだと思います。僕も最初そう思っていました。しかし、二十数年一緒にやってみたら、障害者の割合を増やしながら企業を成長させられました。大きくはないかもしれませんが障害者と共に小さくても優しい会社は作れます。そういった組織の方がまとまりやすく逆に儲かりやすいのではないのでしょうか。もう一度、多様性の意味が問われています。ユニバーサル農業に取り組む中で、ビジネスでも本当の意味での多様性があることで強靱性や収益性が生まれると実感します。農業だけではなく、色々な働く場所に多様性というキーワードを持ち込み、何かチャレンジしてみても面白いのではないのでしょうか。

さんさん山城（京都府京田辺市）

ろう者らが「京の伝統野菜」を守り、
地域活性化に貢献しています。

概要

2011年4月、聴覚障害者が集い、働くことを通して社会の一員として活躍できる事業所「さんさん山城」を開所しました。高齢で担い手のいなかった宇治茶の茶園を継承し、抹茶の元である碾茶（てんちゃ）栽培を始めました。32人の障害者らが宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、花菜、京都田辺なすなど地域特産にこだわった農業に取り組み、

加工食品製造やコミュニティカフェの運営も行っています。地元神社の「ずいき神輿」で屋根に使用されるずいきを毎年奉納しているほか、企業・大学・飲食店などと連携して児童養護施設の入所児童を招いた「さんさん食育プロジェクト」など、農福連携を通してローカルSDGsを実践しています。



成果

農林水産業

- 長年の農業経営が評価され、認定農業者となって地域農業を支えています。
- 荒廃農地を活用した農業によって地域課題の解決に寄与しています。
- 伝統野菜の維持・継承において、重要な担い手となっています。

障害者等

- 6次産業化を実現することで、全国平均を大きく上回る工賃実績を達成しています。
- 引きこもり、高齢者、パラスポーツ選手など、あらゆる人たちの活躍できる場を創出しています。

地域

- ノウフクJASをブランド化し、商品価値を高め、地域からノウフクJASの発信を行っています。
- 多種多世代の人たちが集まるコミュニティカフェは、地域になくてはならない場所となっています。



さんさん山城

藤永 実 管理者、新免 修 施設長

—— グランプリ受賞おめでとうございます。率直なお気持ちを教えてください。

新免：ありがとうございます。ほんまに期待していませんでしたが、本業の農福連携の分野で評価されて嬉しいです。

—— 福祉事業所で取り組む産業として、農業を選んだ理由はなんですか。

藤永：身近にあって地域に根ざした産業に取り組もうというのが基本姿勢でした。「地域で元気に暮らすための居場所」を作ろうと、京田辺で最も地域とつながることができる農業を選びました。地元の農家の取り組みや生活をそのまま取り入れ、農村文化を福祉事業所が維持継承することで、障害者も社会の一員としてさまざまな形で地域貢献できます。最初に手掛けたのが宇治茶の栽培。茶農家が減り、耕作放棄地が増える中で始めました。技術も機械もなく、経験者もないため、地元の茶農家に教わって生産できるように。ろう者は一般のデイサービスで馴染めない人が多いですが、さんさん山城は手話で自由に喋れる「居場所」となっています。

—— 地域の中核として広く活動されていますが、これから何を目指していきますか。

新免：これまでと変わらず、地域の人が「近所にさんさん山城があってよかった」と思ってもらえる事業所を目指します。さんさん山城は、さまざまな人が出入りする「開かれた事業所」です。そんなさまざまな人に恩恵がある事業所にしていきたいです。児童養護施設と連携した「さんさん食育プロジェクト」では、京懐石の料理人や創作フレンチのシェフにさんさん山城食材を使った料理を子どもたちに振る舞っていただきました。子どもたちだけでなく料理人からも貴重な機会をいただいたと感謝されました。このようにいろんな人たちがつながって、地域が元気になる、それが「さんさんノウフク」です。

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

利用者みんなで農業に取り組み、
地域農業の中核となっています。

概要

2014年に「菜の花」を開所し、農業を始めました。現在では、約13名の田畑を耕作し、知的・精神・発達・身体障害者23人の利用者全員が通年で農業に従事しています。

法人内の事業所と連携しながら、玉ねぎ、枝豆、ほうれん草、ブロッコリー、キャベツ、長ネギ、にんにく、米、麦などを

栽培し、野菜は地元の農協や卸売会社に出荷しています。2016年には保育所の園児と、2017年からは地元小学校の児童と、田植え・稲刈り体験を実施。無肥料・無農薬の自然栽培で育てています。ビール麦を栽培し、農福連携クラフトビールのプロジェクトにも参画しています。



成果

農林水産業

- 地域の農協への出荷の割合（品目によっては20%以上）が増えており、地域農業の中核となりつつあります。
- ライスセンター（米の乾燥調製の受託）事業では、1軒ずつ混ぜずに乾燥するため、農家が自身で育てた米を受け取れます。離農予定だった高齢農家が、孫に自身の米を食べさせたく離農を見送るケースなどもあり、現在では毎年60軒以上の委託を受けています。

障害者等

- 県平均を大きく上回る工賃を実現しました。2020年度の平均工賃は月4.6万円で、7万円ほどを達成する利用者もいます。農業による就労アセスメントを実施したため、開所以来8人が一般就労に移行しました。

地域

- 保育所や小学校との田植え・稲刈り体験は継続しており、交流が深まっています。
- 都内の企業と連携し、コロナ前には毎年40人近い家族連れが農業体験をしています。

特定非営利活動法人 立野福社会（新潟県佐渡市）

水路の清掃や除雪でも地域を支え、
アートサロン和は地域内外との交流拠点に。

概要

2013年に小規模作業所の開設と同時に、利用者5人職員1人で農業を始めました。現在では利用者20人が、農業委員会を通じ受託した農地で、自然栽培による農業に取り組むほか、生産物を使った菓子を販売しています。2018年、農山漁村振興交付金で「アートサロン和」を開設。地域住民や障害者の居場所、作品展示と販売の

場として機能しています。自然栽培品目は米と8品目の野菜で、米はJAに出荷し、野菜は加工するほか、イベントやアートサロン和で販売します。日本農福連携協会や自然栽培パーティ、JA佐渡自然栽培研究会に加入しています。



成果

農林水産業

- 高齢者からの依頼で茶畑や柿園を受け継ぎ、荒廃農地の解消に貢献しています。
- 水田への用水路の掃除に参加し、維持管理に貢献しています。近年は農家からよりも作業所から多く参加しています。

障害者等

- 受託作業した利用者は、月5～6万の収入があります。
- 通所により笑顔が増えています。半年以上の一般就労に移行した利用者は2021年度2人増え、累計6人です。

地域

- 「アートサロン和」を開いたことで地域との交流が盛んになるだけでなく、地域外からの来訪者も増えました。特に地域の高齢者が、日中の居場所として定期的に利用しています。
- ボランティアで地域高齢者宅や公民館前、ゴミ置き場前などの除雪をし、地域に貢献しています。

株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）

県全域の農業法人4社が面の連携により、
農業の担い手を産み続けています。

概要

2012年に販売・農福連携を進めるため、農業法人4社の社長が出資して設立されました。4企業の全てが障がい者雇用をしており、2015年から就労継続支援A型事業所をそれぞれの地域で順次スタートさせ、2022年4月には徳島県全域をカバーします。農作業を幅広くサポートする一方で、現在、野菜の流通販売事業で1.2億円の売り上げがあります。適正価格での

野菜販売を継続させることを実現しており、世界を視野に入れ、輸出にも力を入れていきます。今後、10年で5億円の売り上げを目指しています。30品目以上の農産物販売を伸ばしつつ、県内全域のJAや農家さんの農業経営サポート（草刈り、定植、集荷、調整、出荷作業など）を広げることで、地域農業の持続可能性を高めていきます。



成果

農林水産業

- グループのA型事業所では農作業のポイントを的確に押さえた評価を実施することで、給料が最低賃金より3%向上しています。
- グループの農業法人でも障がい者をどんどん正規雇用しています。農場長や機械オペレーターとして働いたり、勤続9年目になる人もいます。
- 25人が一般就職（障がい者枠含む）を実現しました。農家、農協、市役所、学校、その他企業など幅広い分野で働いています。

障害者等

- 農業未経験で障がいや病気を抱えている人が、無理なく農業に挑戦できる環境を県全域に面で作リ、地域の農業を支える大きな力として活躍しています。

地域

- 県市町村の依頼や、多方面の勉強会等で農福連携事例を発表し、この循環を広める活動を1年で15回ほど実施しています。

安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

安芸市の地域力を結集し、
働く障がい者等を支えています。

概要

2018年に設立。「障害があっても仕事はできる！障害等の有無に関係なくすべての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」を目的に、安芸市福祉事務所・農林課、安芸保健所、福祉事業所、なんこく若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センター、JA高知県安芸地区などから構成される同研究会を設立

しました。農業の担い手確保や農地などの維持活用、そして障がい者等の就労を確保し、支援体制と連携の確立に取り組んでいます。活動内容は、講演会・研修会、視察研修、農業体験、農業就労支援の強化などです。



成果

農林水産業

- 農福連携の受け入れ業種が、農業・林業・水産業に波及しました。
- 定着率も高まり、生産性向上や収益向上につながり、規模拡大する農家が出てきました。

障害者等

- 働くことで、自分の居場所、ができ、生きがいにつながりました。
- 生活困窮状態から抜け出せた人や働き始めてから200万円の貯金できた人もいます。

地域

- 就労希望者を県内外からも受け入れており、移住者が増えました。
- 障害者や生きづらさを抱えた人たちに対する理解が深まり、より良い社会の実現に近づいています。

社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里（青森県おいらせ町）

「販わいの中での障がい者の活躍・雇用の場」を実現しています。

概要

「地域における障がい者の活躍・雇用の場」を実現したいとの想いから、基盤産業である農業生産と観光農園の運営に取り組み、2007年より本格的に6次産業化に着手。現在では、リピーターや口コミなどにより来場者は年々増加を続け、県内有数の観光スポットとして年間約40万人が訪れるようになり、地元の観光交流拠点として青森県

だけでなく県外からも認知されるようになりました。園内では障がい者の就労の場として、新鮮な野菜や南国フルーツなどが栽培できる大規模なハウスや直売所、加工施設、レストラン、圃場等が整備されており、土づくりから苗の植え付け、収穫作業、調理補助や加工作業、動物の世話など職種は多岐にわたっています。



成果

農林水産業

- 農業の担い手確保や地域の活性化を目的として2013年に「もち小麦普及委員会」を設立。もち性小麦「もち姫」の栽培に取り組んでいます。収穫された小麦は、21店舗で取り扱われ、関連商品も40種を超えています。学校給食や福祉施設などで採用されるなど、地域の食材として定着し、経済効果も出てきています。

障害者等

- 2020年度、「農山漁村振興交付金」の交付を受け野菜加工施設を整備。高齢農業者や障害者が、年間を通じて農業の6次産業化に取り組むことが可能となり、安定した就労の場を確保することができました。
- 農作物の選定や作業工程の工夫を重ねることで、作業領域が広がり、養護学校等の産業体験実習や、県立営農大学校生を対象とした農福連携の実習施設として、利用されるなど農業と福祉をつなぐ人材育成の場として活用されています。

地域

- 2020年、町内で直売所を運営している高齢農業団体「ふるさとの味研究会」から休耕地の活用や農作業の委託などの相談を受けたことを契機に、連携して菊芋の栽培と商品開発に取り組んでいます。

特定非営利活動法人 一粒舎（千葉県木更津市）

里山をブルーベリー農園に再生し、障害者が生産・加工・観光農園に携わっています。

概要

2007年に小規模福祉事業所として開所。2011年に就労継続支援B型事業所へ移行しました。知的障害者16人、精神障害者4人の計20人が、ブルーベリーの栽培や加工、販売に取り組むほか、観光農園を営んでいます。

草刈りの受注仕事が増えているため、毎年草払い機の安全講習を行い、操作できる障害者を増やしています。隣接する荒廃した里山3㌥を借り受け、再生に取り組んでいます。職員と利用者で廃屋をカフェに改装しました。



成果

農林水産業

- ブルーベリー園は当初の5倍の面積に。農閑期に始めた荒廃農地の草刈りや植栽は、里山を再生しました。

障害者等

- 現在の工賃は（千葉県に300超あるB型事業所で上位5位以内である）4万5千円です。
- 一般就労への移行で退会する障害者はいますが、退職者は少なく、ここ数年の勤続10年の表彰は毎年2、3人います。
- 常に20人の定員はいっぱいですが、多くの入所希望者が見学に訪れます。

地域

- 機械を使える障害者職員が多くいることで、地域の方から草刈りの仕事を頼まれるようになりました。
- ブルーベリー園協議会を通じて、地域や市の行事には欠かさず参加しています。

株式会社 イシイナーセリー (三重県鈴鹿市)

グランドカバー植物「タマリユ」の出荷量一位を誇り、賃金は県平均を大きく上回っています。

概要

1971年に社長が就農しサツキなどを生産していました。2000年ごろ、障害者に軽作業を依頼したことがきっかけで、直接雇用に至りました。2011年、特定非営利活動法人ベルプランツを設立し、A型事業所「きらら」を開所しました。造園や緑化工事に欠かせないグランドカバー植物「タマ

リユ」の出荷量日本一の生産者であり、通年でタマリユの定植、除草作業などの農作業を「きらら」の利用者12人に委託しています。成果を可視化するため市場出荷だけでなく、上場企業の造園改修工事、水泳全国大会での屋内装飾といった仕事に取り組んでいます。



成果

農林水産業

- 作業の細分化や作業環境の工夫により、効率化し、誰が作業しても均一で高品質を維持できるようになりました。
- 生産量日本一と、造園のプロから選ばれ続ける高品質な商品づくりに大きく貢献しています。

障害者等

- 2018年には県内月額平均賃金(7.3万円)より約30%以上高い賃金を実現しています。
- 合計で4人が一般就労に移行しました。7年間ひきこもっていた方が自信を取り戻して一般就労した例も。
- 駒沢オリンピック公園総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品などを通じ、生きがい働きの面白さをより感じられるようになりました。
- Amazonへ寄せられた高評価を共有して品質管理に反映させるだけでなく、利用者の励みにしています。

地域

- 2015年度には、ベルプランツが三重県の伊勢志摩サミット開催記念事業を受託し、サービスエリアでの花壇の制作(デザインから設置、管理、撤去に至るまで)を障害者とともに行いました。

株式会社 いずみエコロジーファーム (大阪府和泉市)

いずみ生協グループとして
食品廃棄物から作った堆肥で野菜を生産しています。

概要

2010年に大阪いずみ市民生活協同組合のグループ会社として農業生産法人を設立しました。2012年、A型事業所を社内に開設。農業生産事業部14人(うち障害者9人)、農産加工などを担当するハートランド事業部14人(うち障害者8人)の従業員28人と、役員を合わせた全社員が

農作業に従事しています。生産した堆肥を畑に投入し、栽培した農産物をいずみ市民生協などに販売する「食品リサイクル・ループ」と地産地消を実現しています。2019年にノウフクJAS認証を取得し、小松菜、きゅうり、ほうれん草、春菊が認証されました。



成果

農林水産業

- 障害者を多く雇用することで、事業規模が拡大し、遊休農地の解消に貢献できました。
- 「大阪産(もん)」の生産・販売で地産地消に貢献。2020年度は小松菜45万袋、キュウリ12万袋を出荷しました。

障害者等

- 障害者は全員が正社員です。11人が一般就労に移行しました。
- 働きづらさを抱える方がパート勤務、正社員を経て、現在は副施設長として勤務しています。

地域

- 農業や障害者のイベントに可能な限り参加し、野菜を直売するほか、近隣企業へ「ノウフクJAS」野菜を販売しています。
- 地域内外から見学を受け入れ、障がい者との交流や収穫体験を実施しています。

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて (和歌山県紀の川市)

紀ノ川農協と協同して
6次産業化に取り組んでいます。

概要

2001年に「紀ノ川農業協同組合」が直売所「ふうの丘」を開設する際に、隣接して「オープンカフェ風車」を開所。前身団体が2010年から援農隊としてミカン収穫などを手伝っていました。現在は、農業部の障害者6人が、借り受けた農地約2㍓で、たまねぎ、トマト、大根、唐辛子、サツマイモ、キウイを生産しています。

2014年に事業継承した「オープンカフェ風車」と「カフェムリーノ」を運営。近隣農家からの果物や、地元企業が生産するトマトケチャップ、米油などを使っています。近隣の新岡農園から、じゃばらの加工を請け負うほか、α化米粉の製造など、農家の6次産業化に貢献しています。



成果

農林水産業

- 地元テレビ局や新聞に取り上げられ、県外からの視察もあります。農福関連セミナーや大学の講義等への招待が増加。
- どんな経緯でも積極的に雇用する姿勢や、紀の川支援学校の実習受け入れなどが評価され、就労希望者が多いです。
- 休耕地を中心に借り受けています。食品加工に取り組み、6次産業化を図っています。

障害者等

- 地域の高齢農家の農地の担い手となっています。現在も借り入れ依頼が数件あり、規模拡大を検討しています。

地域

- 地域内外からの訪問者が増え、紀ノ川農協の産直「ふうの丘」にも回遊し、地域の活性化に貢献しています。
- カフェで野菜が使われることで、生産者の意欲が向上し、積極的に農作物の導入提案があります。
- 「ふうの丘」周辺の竹林整備に、もぎたてメンバーと紀ノ川農協組合員が協働して取り組んでいます。

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所 (宮崎県宮崎市)

農業を通じた更生を支援し、
矯正施設退所者を含む利用者が活躍しています。

概要

2012年に設立。同年、A型事業所を開きました。利用者全員でできる農業に取り組むため、2016年に農業法人である株式会社CoCoRoファームを設立。矯正施設退所者を含む27名の利用者が土づくりから栽培、収穫、選別、配送まで取り組んでいます。2020年度に農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用

し、加工場を設置。野菜の一次加工により収益向上を目指します。矯正施設退所者を一時的に受け入れる自立準備ホームを運営。また犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける事業主である「協力雇用主」に2016年に登録しました。農業を通じた更生支援に力を入れています。



成果

農林水産業

- 収穫などの施設外就労に積極的に参加しています。地域の行事である草刈りにも参加。
- 2021年には地域からの要望で農地を拡大しており、地域農業の維持に貢献しています。

障害者等

- 障害者の賃金は平均6.3万円で、中には県の最低賃金を上回る時給900円を実現している利用者もいます。
- 2020年には、ある障害者が農業法人への一般就労を果たしました。矯正施設退所者も安定した生活を送っています。

地域

- ノウフクJASを取得したことで取材・視察・講師の依頼が増えており、県内の大手小売店からノウフクJAS商品を取り扱いたいと依頼があり、地域内の販路が広がりました。
- 関連の放課後等デイサービスへは、子どもたちの農作業の様子を知り、依頼が殺到しており、増設を検討しています。

株式会社リーフェッチ あまみん（鹿児島県大島郡龍郷町）

加工・販売・ECサイトの作成に障害者が携わり
6次産業化を実現しました。

概要

2016年にB型事業所「あまみん」開設。同時に近隣農家（マンゴー・バジル・たんかんなど）の手伝いを始めました。精神障害者を中心に5～16名で農作業を、その他の利用者が食品加工（ジェラートやハーブティー）に取り組んでおり、通所だけでなく在宅就労では対人恐怖症の方がECサイトを作成・管理、筋ジストロフィーの方がジェラートのパッケージデザインを行うなどその人にマッチした作業を

提供しています。

農家手伝いでは労働対価を作物で得ることで農家の金銭的負担を減らし、いただいた作物や自家栽培のハーブを加工販売することで工賃を稼いでいます。工賃向上のため、各種助成や補助を活用しながら積極的な設備投資を行っています。



成果

農林水産業

- 近隣農家5件にて多品目で季節ごとの農作業を請け負うことで通年の業務を確保できました。
- 町の若手農家グループに所属することにより、農家のニーズを適時に解決できる体制が取れています。

障害者等

- 6次産業化により外仕事、食品加工、販売、デザイン、ECサイト運営、在宅就労など、当施設だけで様々な職種に挑めるようになりました。また作業をチーム制としたことによる所属意識が高まりました。
- 島内外での販売拡大や有名店との取引により、利用者に自信と責任感がつきました。

地域

- 島内外18か所でのジェラート販売やSNS発信により認知度が向上。奄美群島内からOEMの依頼があります。
- 奄美群島の島々からジェラートの素材を集めるため、商工会と連携し商談会に参加して情報収集しています。

新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク（東京都新宿区）

地域の百貨店や企業と連携し、
養蜂やはちみつを使った商品開発に取り組んでいます。

概要

2017年に設立。障害者の就労機会の創出と工賃向上、地域との連携、障害者理解の促進を目的に、公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センターが事務局となり、新宿区内の障害者福祉事業所等30事業所からなるネットワークを組織しました。2019年には、プロジェクトの一環として「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始し、現在は、区内3か所で養蜂事業を行っています。福祉事業所が協力して養蜂作業や商品の開発・販売を行っています。

2021年から始まった新宿伊勢丹店パークシティセタンIIでの養蜂事業では、採れたはちみつを伊勢丹新宿店に出店する有名菓子店20社に卸し、はちみつを使用した商品開発と販売が行われました。事務局である新宿区勤労者・仕事支援センターと、養蜂作業を担当する福祉事業所の間で、作業内容に応じた委託契約が結ばれ、委託料が支払われています。



成果

障害者等

- 生き物を育てることへの自覚と責任が生まれ、事業所を休まなくなりました。他の事業所の利用者や企業等の職員に対して作業指導をするなど、自信の回復につながっています。
- ある精神障害者は、生きる意欲が向上し、50歳になってから「自分の夢を実現させたい」と定時制高校に通い始めました。
- 養蜂作業に伴う、内検作業・採蜜作業・瓶洗浄・瓶詰め・ラベル貼り等、様々な作業に取り組むことで、利用者の工賃向上につながりました。

地域

- 自然環境を保護し、持続可能な社会の実現に貢献しています。
- 障害者福祉事業所と企業、障害者と健常者が互いを認め、活かしかい、協力することができており、垣根のない社会の構築につながっています。

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎（長野県筑摩郡筑北村）

農林福連携で
地域循環型社会の構築を図っています。

概要

2019年に設立。翌年にはB型事業所を設立し、農林業に加えて製材事業、製油事業を始めました。農業は、荒廃農地250㌥を借りて古代麦、ケール、にんにく、りんごなどを有機栽培で生産しています。

林業は、松枯れ木の伐採、間伐の請負や林産物加工を行っています。村内温泉施設の木質バイオマスボイラへ薪を供給し、運用しています。薪ストーブ用の薪も製造・販売を行っています。



成果

農林水産業

- 徐々に農地を拡大することで、荒廃農地を減らし、農地維持に貢献しています。
- 地域で唯一の林業事業者のため、山林管理や施業の窓口機能を果たしています。
- 伐採件数は年間40件。300本以上の危険木を伐採し、安全な暮らしを守っています。

障害者等

- 工賃が向上し、一人暮らしを始めた利用者や、普通自動車免許を取得したり、玉掛け技能講習や林業技術者養成講習を修了したりした利用者もいます。

地域

- 年間200㌥の間伐材が温泉の燃料として使われています。カーボンニュートラルと地域内での循環を目指しています。
- 移住者の副業支援、農閑期のアルバイト、高齢者の雇用創出を図っています。

ちゅら CuRA!（新潟県新潟市）

ハーブと地域の農家の野菜や果物で
ドレッシングなど加工品を作っています。

概要

2016年に設立。翌年、施設外就労を受け入れて農福連携を始めました。代表と健常者1人、パート2人に加え、2つの福祉事業所から施設外就労を受け入れ、さらに育苗作業を1事業所に委託しています。農地面積は、畑地が74㌥で、ハーブや在来種の野菜を栽培、パイプハウスで育苗や寒さに弱い作物を栽培しています。「いちからすべて みんなと一緒に」を理念に、圃場整備から

販売まで全ての作業に障害者が関わっています。近隣農家が生産する果物や野菜とハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャムなど加工品を生産し、県外でも販売。2019年にはサンプルをロシア・フランス・シンガポールに輸出しました。新潟市内の中高特別支援学校の生徒を2018年から毎年実習生として受け入れ、施設外就労の利用者と協働しています。



成果

農林水産業

- 圃場作業と加工作業を利用者に任せられるため、商談機会が得られ、販路が拡大しました。
- 生産性が3倍以上に上がり、大口の発注や、OEMやPB商品の委託に応えられるようになりました。

障害者等

- 異なる福祉事業所の利用者が混ざって農作業しています。チーム分けし、A型事業所の利用者が慣れている作業を、B型事業所の利用者が教わるなど、利用者自身が主役になる機会を設けています。
- 屋内の細かい作業が苦手だった利用者が外で働くことで新たにできることが増えていくことが多いです。

地域

- JA青年部有志による圃場作業に利用者と参加したところ、「楽しく協働でき、仕事も捗った」とその後も繁忙期には声がかかるようになった。
- 地域の高齢農家の作業を手伝うことで、双方の理解が深まり、孤立する高齢者とコミュニケーションを図っています。

株式会社JAぎふ はっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)

単位JAで初めての特例子会社として
新たなモデルを構築しています。

概要

JAぎふ100%出資の特例子会社として、2020年に設立しました。JAぎふで雇用していた障がい者7人と農業部門の新規採用障がい者5人で創業。
飛騨・美濃伝統野菜「まくわうり」の原種苗を農業高校から

譲り受け、受託栽培しています。里芋、サツマイモ、とうがらしを栽培するほか、野菜苗、花苗などをLED人工光栽培で生産し販売しています。



成果

農林水産業

- JAぎふ女性部高齢化で廃業の危機にあった「まめなかな味噌」製造事業を継承しました。
- 幻の唐辛子「徳山唐辛子」を旧根尾村、本巣市根尾地区で育て、JAぎふが開発した「徳山唐辛子みそ」はヒット商品になりました。

障害者等

- 保護者と顔の見える関係、相談できる体制を構築し、苦情が激減しました。
- 健常者と同じ資格取得をすることで、働く意欲が高まりました。

地域

- 障がい者向け体験農園として「まるけふあ〜む」を開設し、交流に取り組んでいます。
- 「はっぴいマルシェ」を開催、地域交流し、栽培した農産物、加工品、飲食の販売を実施しています。

遊士屋株式会社 (三重県伊賀市)

農福連携で
世界に誇れる高品質ないちご生産に取り組んでいます。

概要

2017年に設立。同年、荒廃農地を借り受け、いちご栽培を始めました。農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をする」と掲げ、世界中に自分たちの作ったいちごを届けることを事業の根幹に据え、

「BERRY」ブランドを作りました。
独自流通ルートを前提とした生産・販売体制を構築し、高品質・高付加価値な日本のいちごを国内外に届けています。



成果

農林水産業

- 品質が認められ、多くの名店に採用されています。個人向け・プロ向け直販、輸出など販路を多角化し、コロナ禍でも安定した実績を上げました。
- 作付面積55㌥、育苗施設や準生産施設を含めると1.5㌥を活用。全て耕作放棄地や遊休地です。

障害者等

- ウェッジウッドやモンサンクレー、ミシュラン掲載店などで採用され、モチベーションや生きがいに繋がっています。
- 毎週1回は(会社から発注して)パートのスタッフが、地元食材を使った手作りの食事を振る舞っています。

地域

- 2020年から地域イベントへの参加を増やし、冷凍いちごスムージーやいちごホットワインなどの店を出しています。
- 地元で人気のコーヒー店「HANAMORI COFFEE STAND」とコラボしたふるさと納税返礼品を企画しました。

ウィルチャーファーム（沖縄県沖縄市）

車いすで入れる農場で
障害者の自立を目指す教育を行っています。

概要

2012年に営農を開始。2021年にウィルチャーファームを設立し、農福連携に取り組み始めました。障害者支援センター花灯の協力のもと、車いすに特化した農場を設立し、職場体験や実地研修を実施しています。高等特別支援学校の職場体験を4年間受け入れています。実習修了までに野菜の原価計算ができるようになり、自信につながっています。

毎週土曜日、子ども食堂と連携して、子どもたちに植え付け、収穫、配達までのプロセスを実際に見せ、お金の流れ、稼ぎ方の見本を見せています。さらに、地元農家の協力で小菊の販売経験を行っています。農作業などを通じて障害者教育を行い、自立を促しています。



成果

農林水産業

- 経営者が新しい事業に挑戦し、規模を拡大を模索するため、障害者ができる農作業を増やす努力をしています。

障害者等

- できることが増える喜びを感じ、自信をつけて、一般就労を目指すために、「どうやって作るか、どうやって売るか、どうやって稼ぐか」を教えています。

地域

- 子ども食堂との連携により、低カリウム野菜の周知につなげている。
- 不登校児を受け入れ、社会とのつながりを設けることで就職活動を手助けしています。

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団（青森県東津軽郡平内町）

農林漁業×福祉での連携の形で
地域に貢献しています。

概要

2012年に設立。10年以上耕作されていなかった農地を借り、障害者28人で水稻栽培などの農作業、薪ストーブ販売店と提携した薪材生産、漁具修繕などの軽作業を行っています。取組が認められ、地域住民から遊休農地

賃借の依頼が継続的にあります。青森県農福連携マルシェに参加し、利用者と共に米や薪材を販売しました。



成果

農林水産業

- 地域の水田の90%超を借り、地域農業の担い手となっています。
- 地域の遊休林などの伐採を請け負うことで、地域の景観を保持し、地域住民と信頼関係を構築しています。
- 漁具保全などの作業を請け負い、後継者不足に悩む漁業者の負担を減らしています。

障害者等

- 業種や作業内容が多岐にわたり、利用者の働きたい意欲が向上しました。
- 林業に興味を持った利用者が、自己研鑽により各種作業免許を取得し、林業事業所へ就職しました。

地域

- 水田の維持管理による地域景観保全により、自然を舞台とした子どもの遊び場を提供しています。
- 大収穫祭で餅つき大会や「おにぎりコンテスト」を開催し、地域住民と交流しています。
- 漁具修繕等を行うことで、地元漁師と利用者との関りが多く見られるようになりました。

福島県立大笹生支援学校（福島県福島市）

特別支援学校の生徒が
JAと連携して農業体験しています。

概要 1979年に創立。生徒数の増加に伴って校内圃場がなくなり、農業体験が難しい状況になりました。しかし、2020年から「将来の職業選択の幅を広げるための農業の魅力の発信」や「農業体験といった郊外活動を通じて食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、

生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的に、JA福島中央会と連携して農業体験を実施しています。農家に出向いて長ネギや長なすの収穫、収穫後の調製作業、包装作業を行っています。



成果

農林水産業

- 農業従事者に特別支援学校（知的障害者）の生徒と関わってもらうことで、特別支援学校の生徒への理解が深まり、将来の地域の農業労働力になることが期待できます。

障害者等

- 野菜の収穫から調製までの作業を実際に体験することで、農業への興味・関心が高まりました。
- 卒業後に農福連携に取り組む福祉サービス事業所の利用を検討している生徒にとって、農作業を知る機会になっています。

帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム（千葉県我孫子市）

特例子会社として
有機野菜、食用バラ、胡蝶蘭を栽培しています。

概要 2019年に帝人株式会社の100%出資の特例子会社として設立。ハンディキャップのある方々にとって「やりがいと働く楽しさ」が溢れる職場づくりを目的に事業を始めました。

自社農園（地元農家から農地を借り替えて経営主体を変更）で、付加価値の高い有機野菜、食用バラ、胡蝶蘭の生産と販売を行っています。



成果

農林水産業

- さまざまな障害特性のある方々が農作業において戦力となっていることが示されています。
- 大手企業ならではの役員・社員の応援・支援による販売モデルが確立されつつあります。

障害者等

- 支援員が張り付かないことでかえって社員が成長し、生産性・品質が向上することが分かってきました。
- 精神障害メンバーが発達・知的メンバーを指導・育成することで、重度メンバーも含む適材適所のチーム作業が実現しています。

地域

- 策定中の2022年度以降の我孫子市の中長期計画の中に農福連携が盛り込まれることが確定しました。
- 胡蝶蘭が我孫子市ふるさと納税返礼品に登録されており、財政面で市を支えています。

社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス（神奈川県平塚市）

地域農家と連携して6次産業化に取り組み、
Win-Winの関係を構築しています。

概要

2006年に開設。2013年に6次産業化総合事業の認可を受け、自社ブランド「湘南トマト工房」を立ち上げました。近隣農家や地元JAから規格外トマトを買い入れ、ジュースやジャムなどを製造しています。

個人農家を中心にOEMを受託しており、食品加工に特化することで、農家との間で互恵的な関係を構築しています。



成果

農林水産業

- 処分されていた規格外トマトを当施設が購入することにより、農家の収入が上がりました。
- OEM商品を開発する新規の農家が増え、受託加工件数が増えました。

障害者等

- 生産した商品が一般の商品と同一に扱われていることで、自信と働く喜びにつながっています。
- 年々収入が向上し、障害者の賃金と工賃が向上しており、自立につながっています。

地域

- 地域のイベント、マルシェなどでの販売依頼が増え、地域交流が活発化しています。
- ネットワークの交流により、加工品の相談をはじめ、コラボ商品の開発も実現しました。

社会福祉法人太陽福祉会 菜の花作業所（和歌山県御坊市）

水福連携で県内初の自然塩づくりを通じて、
地域との連携に取り組んでいます。

概要

1985年に設立。2020年から、本格的な農水福連携を始め、障害者12人が釜焚き自然塩づくり作業に取り組んでいます。塩づくりの時にできる（多種類のミネラルを含む）天然にがり希釈して農産物に散布する「にがり農法」を実施しています。漁協の協力で海水をポンプで汲み上げ、燃料は地域から持ち込まれる廃材を利用者が薪割機で

薪を割って利用。コロナ禍に苦しむ地域の飲食店と連携し、この塩を調味料とした焼き鳥セットを販売しています。胡麻製品販売会社「和田萬」から依頼され、隣接した荒廃農地を利用して、利用者の農業活動として胡麻栽培を行っています。



成果

農林水産業

- 釜焚き自然塩づくりは県内初だったので、他の事業者にも塩づくりを伝授し、県内に取組が拡大しています。
- 将来的には製塩設備を増設して干物などの水産加工品を製造することで、地域漁業の維持に貢献することを計画中です。

障害者等

- 自然と接する塩焚き作業は、利用者にとって精神的に良い影響を与えており、鬱であった人が良好な状態まで回復し、福祉関係等の一般就労へ就職する人も出ています。
- 定年退職した高齢者4人も手伝っており、生きがいへとつながっています。

地域

- 水福連携に取り組んだことで、行政や福祉関係者が多く訪れるようになり、実践事例など話す機会が増えました。
- 大阪などの都市部からの見学者が増え、塩焚き体験等の要望もあり、都市部との交流も進んでいます。



チャレンジ賞

社会医療法人正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

馬事文化を継承し、
障害者のコミュニケーション向上を図っています。

概要

2019年に設立。20坪のハウスで、ミニトマト、きゅうり、細ねぎなど一般野菜から、ピーズ、食用花など、地域のレストランに向けた野菜、バタフライピー、グラスジェムコーンなど珍しい作物を特産化目指して栽培しています。引退した競走馬を受け入れており、コミュニケーションが

苦手な障害者にとって、馬との関わりは意思を伝える練習になっています。近隣農家に馬糞堆肥を提供しています。2020年度の時給は845円でした。



成果

農林水産業

- 生産したバタフライピーのハーブティー「高津川マジックアワー」が、特産品として注目されています。
- 取引している卸売業者は地産地消を推進しており、生産者として地域農業に貢献しています。

障害者等

- より高度な作業ができる障害者は時給を上げ、リーダーとしての責任感を持って作業を行っています。
- 中学時代に放課後デイサービスに通っていた高校生が、牧場での就労を希望しています。

地域

- 馬事文化を継承しており、地域から「馬のいる風景がまた見られて嬉しい」との声があります。
- 観光牧場として、地域の憩いの場や観光地となり、地域内外からの来客が多くなりました。
- 馬に野菜が届く引退馬支援のふるさと納税の申し込みが36件あり、地域貢献につながっています。

2020

ノウフク
アワード

NOUFUKU AWARD
2020

受賞一覧

グランプリ

社会福祉法人 白鳩会 花の木農場（鹿児島県南大隅町）

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人南高愛隣会（長崎県雲仙市）

審査員特別賞「地域を耕す」

社会福祉法人青葉仁会 あおはにファーム（奈良県奈良市）

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社ウィズファーム（長野県松川町）

審査員特別賞

松本ハイランド農業協同組合（長野県松本市）

特定非営利活動法人HEROES（京都府京都市）

香川県社会就労センター協議会（香川県高松市）

全国農業協同組合連合会大分県本部（大分県大分市）

優秀賞

一般社団法人松島のかぜ（宮城県松島町）

社会福祉法人こころん（福島県泉崎村）

埼玉福興株式会社（埼玉県熊谷市）

認定・特定非営利活動法人UNE（新潟県長岡市）

特定非営利活動法人ピアファーム（福井県あわら市）

株式会社シルクファーム（鳥取県米子市）

社会福祉法人喜和会 障害者支援施設太陽の里（島根県出雲市）

ノウフク・アワード2020 概要

ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体・企業や個人（以下「団体等」という）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものであり、こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に設立されました。

審査基準

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード2020では「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行うこととしました。

応募件数

応募期間については、令和2年9月16日（水）から令和2年11月17日（火）までとして、ノウフクWebなどを通じて広く応募し、全国から195団体の応募がありました。

各賞の選定経過

各賞の選定に当たっては、令和2年12月21日に審査委員会を開催し、各賞を選定しました。

グランプリについては、1972年から農福連携に取り組み、障害者だけでなく、触法障害者等、生きづらさや働きづらさを抱える多様な人々を受け入れ、農福連携のトップリーダー的存在でもある「社会福祉法人白鳩会花の木農場」を選定しました。

また、審査員特別賞については、「人を耕す」の部として、長崎県の「社会福祉法人南高愛隣会」を、「地域を耕す」の部として、奈良県の「社会福祉法人青葉仁会 あおはにファーム」を、「未来を耕す」の部として、「株式会社ウィズファーム」をそれぞれ選定するとともに、中間支援組織として、農作業の施設外就労のコーディネートを行うなど、農業サイドと福祉サイドをマッチングを行っており、モデル的な取組として、農福連携の基盤づくりに貢献している「松本ハイランド農業協同組合」、「香川県社会就労センター協議会」、「全国農業協同組合連合会大分県本部」、農福連携の潜在的な可能性を感じさせる取組であり、農商工福連携の取組としても評価できる「特定非営利活動法人HEROES」についても審査員特別賞として選定しました。

社会福祉法人 白鳩会 花の木農場（鹿児島県南大隅町）

農福連携のパイオニア

1972年から障害者の働き場所の確保のため農業に取り組んできた農福連携のパイオニアです。45^{ヘクタール}の広大な敷地で、障害者だけでなく生きづらさや働きづらさを抱える人が、農畜産業や食品加工、レストランに携わっています。



概要 広大な大地で多様な人びとが農業従事

本州最南端の町・南大隅町で、障害者とともに農業をおこなってきました。知的障害者、精神障害者、後天性の難病患者やシングルマザー、触法障害者や 養護学校の非行者、他施設の処遇困難者など、生きづらさや働きづらさをかかえる多様な人びと

140人が働いています。20種類以上の野菜等の生産、牛や豚などの飼育・解体・精肉・食肉加工、パン製造、レストランの接客に至るまでほぼ全ての作業に障害者が携わっています。地域課題である「耕作放棄地の借り入れ」は15.6%です。



成果 花の木農場は、地域のサテライトに

農林水産業

- 多品目栽培により年間を通して農作業できるようになり、作業種目が20種類以上に増えました。
- ASIAGAPの取得によって、農場内の障害者の労働安全や労務管理を徹底。有機農業にも取り組み、有機JASを取得しました。

障害者等

- 2015から19年度で一般就労につながった障害者は4人。経済的に自立している障害者も多くいます。
- 障害者の農業技術が高まっており、お茶を収穫する乗用摘採機、茶園を管理する防除機などを操作することができる障害者も多いです。

地域

- 農場内の2つの直売所兼レストランは地域の交流拠点となっており、交流人口にも寄与しています。
- 地域の交流拠点であるゲストハウス等とコラボし、地域住民×花の木農場で「地域のサテライト花の木農場」作りプロジェクトを開始しました。



農カントリー、農ライフ

社会福祉法人白鳩会

理事長 中村 隆一郎

今から20年以上前の話ですが、「園芸療法」という言葉が一部の関係者（福祉・医療・農業・地方行政など）の間で注目されたことがありました。ご存じの方も多いかと思いますが、植物が持つ癒し効果や成長のダイナミズムを人間の心身の健康に活用していこうというものです。当時の白鳩会もその研究プロジェクトに参加する機会があり、海外先進地視察や書籍の共同執筆を私自身が経験しました。またそこで得た人脈によって、花の木農場のロゴマークとブランディングが生まれるという副産物にも恵まれました。

ところで多くの方が言われるように、福祉施設が農業に取り組むこと自体はさほど珍しいことではありません。ノウフク・アワード初代グランプリの栄誉をいただいた際も、（園芸療法の頃から農業の多面性を見てきた私にとって）素晴らしい全国各地の取組を前に思わず赤面しそうになりました。と同時に、もしかしたら「花の木農場＝ノウフク」としての活動のエッジを際立たせるには絶好のタイミングかもしれない…とも感じました。つまり、収穫や加工に重きを置いた生産活動だけが農業の役割なのではなく、老若男女を問わず多くの人々が行き交う農的な暮らしの場が重要なのではないかという仮説への挑戦です。

某音楽販売店のキャッチコピーに「NO MUSIC, NO LIFE」というものがあります（音楽のない生活なんて！みたいな感じでしょうか？）。私のような無類の音楽好きにとって素晴らしく共感できるフレーズです。翻って、花の木農場はさらに多様性のある農場を目指し、「農カントリー、農ライフ／農村のない生活なんて！」とここに主張させていただきます。

社会福祉法人 南高愛隣会（長崎県雲仙市）

在来種「対馬地どり」を守る

1977年から農福連携に取り組み、知的障害者だけでなく、触法障害者も活躍する事業所です。企業や県と連携した在来種「対馬地どり」の飼育など、地域農業の維持・発展や地域活性化に貢献しています。



概要 和牛の飼育やアスパラガスのハウス栽培にも取り組む

地元JAと連携して繁殖牛30頭の飼育と60㎡の畑で野菜栽培を展開しています。企業や県と連携した「対馬地どり」2,000羽の飼育にも取り組み、都市部の高級ホテルへ販売しています。その生産・消費の拡大を目的に、飼料提供元の長崎県養鶏農業協同組合らと「長崎対馬地どり振興協議会」を立ち上げ、飼育

技術の普及・向上に努めています。農繁期の人手不足解消のため農家へ農援隊を派遣。また工賃向上を目的に10年前からアスパラガスの本格的なハウス栽培を始めました。



成果 秋の収穫祭をきっかけに地域連携深める

農林水産業

- 地域で「対馬地どり」と和牛の種の保存に貢献し、優良な受精卵の提供に取り組んでいます。
- 農援隊の派遣は、2016年に年間30日ほどでしたが、18年には218日に増えました。

障害者等

- 平均工賃が年々増加しています。地域の農家から感謝され、自己有用感とモチベーションが高まっています。

地域

- 「対馬地どり」は長崎県庁レストランの特別メニューで採用され、好評を博しました。
- ニーズが高まり派遣農家数が増えています。2016年度は8件でしたが、20年度には27件になりました。
- 毎年地域住民とともに秋の収穫祭を開催し、親睦を深めています。
- 収穫祭を機に、地域での役務作業・防災活動や救急講習の開催へと発展しました。

社会福祉法人 青葉仁会 あおはにファーム（奈良県奈良市）

地域密着型ノウフク

農業だけでなく食品加工、レストランや直売所にまで障害者の活躍の場を広げています。急速に耕作放棄地が拡大する中、地元農家の指導のもとハーブ栽培などに取り組み、持続可能な地域づくりを進めています。



概要 農産物・加工品は直轄のカフェへ全国へ

2019年4月に農福連携を通して地域の再生を図るべく、あおはにファームをつくり、8割の耕作を始めました。50人の障害者がブルーベリー 2,000本の栽培管理・運営を担っています。地域の耕作放棄地では米や30種類超の野菜、果樹を栽培しています。県内で受け継がれてきた大和帰郷、大和橘を含みます。

農産物は法人内6カ所のカフェ・レストランの食材として提供されるほか、企業からの受託製造もする加工部門で多岐に活用され、全国のスーパーや物産展へ出荷されます。どの事業所も主力は障害者です。



成果 農家生活体験など事業を多方面へ広げる

農林水産業

- 通年で農作物を栽培することで、農作業を安定確保し、農産物を毎日出荷しています。

障害者等

- 人力でできることと、機械が必要なことなどを細かく分け、それぞれの個性に合わせて割り当てています。
- 支援学校等を卒業する障害者を受け入れられるよう、毎年事業を拡大しています。

地域

- 農業の衰退・高齢化の進む中山間地域で、レストランやマルシェ、商業施設「満天ひろば」を開いています。
- 農家生活体験を提供するなど観光振興にも努め、地域全体では年間7万人が訪れるまでに。
- 農業を着実にやり、地域住民との信頼関係ができた結果、地元の高齢農家から農地借用や購入の依頼が多く寄せられています。持続可能な共生社会を目指しています。

株式会社 ウィズファーム（長野県松川町）

ノウフクJAS第1号

ノウフクの社会的認知向上や販路の拡大を目指し、ノウフクJASの認証を受けた初めての事業者です。県外の販売会への参加や講演活動など、その取り組みは先進性や独創性に富んでいます。



概要 りんごなど多品種栽培で作業を細分化

ノウフクの社会的認知向上や販路の拡大を目指し、ノウフクJASの認証を受けた初めての事業者です。県外の販売会への参加や講演活動など、その取り組みは先進性や独創性に富んでいます。「株式会社ひだまり」から知的障害者、精神障害者、身体障害者

を15人受け入れています。りんごやぶどうなど5種の果物のほか、6種類の野菜を栽培し、りんごジュースの委託加工もしています。2020年からインターネット通販を始め、全国に農産物を届けています。



成果 耕作放棄地の拡大を抑える

農林水産業

- 2017年4月に認定農業者を取得しました。りんごの栽培面積が増え、年間作業日数は269日に達しました。
- 地域農家や町との信頼ができたため、農地借用・購入の依頼が多く寄せられ、農地面積は175㌥まで拡大。

障害者等

- 平均を大きく上回る平均工賃を実現しました。中には月5万円以上受け取る方もいます。
- 働きぶりが認められ、1人が地域の農業法人に一般就労しました。

地域

- 各種イベントやマルシェに参加し、地域内外の人びととの交流が生まれています。
- 農福連携を理解いただいた近隣農家から「数年後、うちの畑もウィズファームにお願いして障害者の人たちと維持して欲しい」と言っている方がいます。

松本ハイランド農業協同組合（長野県松本市）

モデル的なマッチング制度

無料職業紹介事業をベースに農家と福祉事業所の無料マッチングの仕組みを構築しました。地域農業の振興と障害のある人の働き場所の確保を図っているモデル的な取り組みです。



概要 JAと福祉協議会の強みを合わせる

農業の人手不足の中、地域に根ざしたJAとして、農家と福祉事業所の橋渡し役を担っています。福祉事業所と関係が深い「長野県セルフセンター協議会」と連携し、効率的に農家と福祉事業所をつなげています。

主に低工賃に悩んでいる「就労継続支援B型事業所」に比較的にやさしい作業を依頼しています。その内容は、ジュース用トマトの収穫、草取り、マルチシート剥ぎ、剪定枝や長いも棚の片づけなど、技術を要さないが、時間を要する作業メニューです。



成果 障害者と農家双方が取り組みやすく

農林水産業

- 天候等で急に作業スケジュールが変わる農業でスポット的に労働力を確保でき、生産基盤が強化されました。
- 農福連携で耕地面積の維持・拡大、耕作放棄地の発生防止が果たされ、地域農業の振興につながりました。
- JAと農家との関係が深まりました。

障害者等

- 時給制ではなく歩合制にすることで、無理な作業の強制や焦って作業するリスクを予防できています。
- 不作や災害等の生産リスクは農家が負うことで、適正金額で受託でき、工賃が上がりました。月平均で3,000円以上増えた事業所もあります。

地域

- JA農産物直売所でノウフクマルシェを開き、訪れた地域住民や観光客に障害者が活躍する姿をPRできました。直売所へ初めて訪れる障害者の家族も。

特定非営利活動法人 HEROES (京都府京都市)

ノウフク地ビール

全国の福祉事業所と連携して原料を調達し、醸造からラベル貼り、出荷まで障害者が携わる農福連携地ビールの生産プロジェクトは、ノウフクの将来に向かって新たな分野を切り拓いていく取り組みです。



概要 グレートビアアワーズで銀賞

2014年1月に生活介護事業所を開きました。重度の障害のある方に仕事を提供するために、17年に酒類製造免許を取得。クラフトビールの醸造と販売をはじめました。ビールの原料は輸入が一般的ですが、完全国産化の「100%ノウフク連携ビール」を目標にしています。

主に自閉症などの知的障害者18人で製造、販売を行っており、うち1人は工程すべてに関わる醸造家レベルの腕です。京都市内を中心に取扱店が50か所超あり、19年度グレートビアアワーズでは、銀賞1つ、銅賞2つ、20年インターナショナルビアカップで銅賞1つを受賞しました。



成果 地域課題に協働して取り組む

農林水産業

- 群馬県で栽培している麦は、当初10㍻だった作付けが2020年度は1㍻に増えました。京都府亀岡市でも栽培がはじまり、同県福知山市で栽培が検討されるなど、休耕地活用に関心が集まっています。

障害者等

- 6次産業化で生産、加工、販売のそれぞれの部門で作業工程が増え、工賃が向上しています。自分の作業が、前後とどのようにつながっているか可視化することで、やりがいや自信を生み出しています。

地域

- 地域にある課題解決に向けて協働し、交流が活発化しています。福祉には、障害者の自立や仕事づくり、農業には、耕作放棄地や人手不足などの問題があります。自治会を再構築し、共生社会を標榜します。

特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会 (香川県高松市)

農家と施設をマッチング

農業の施設外就労の共同受注窓口として、農家と福祉事業所のマッチングを行っており、その取り組みモデルは全県的に拡大しています。



概要 ノウフクを県内全域に広げ、その窓口となる

2008年頃、香川県のB型事業所の平均工賃が全国的にみて安く、農業者の高齢化が進み、同県の農産物の生産量を維持・拡大することは困難でした。そこで、県とJAが共同で試行し、障害者がにんにくの農作業で活躍できることがわかりました。その取り組みは、瞬く間に県内全域に広まりました。2011年に

協議会は、農業の施設外就労の共同受注窓口となり、作業依頼から工賃支払いまでをフォローしています。参加する経営体は、農家のべ258件、施設数のべ269件に拡大しています。さらなる増加と工賃の増額を目指します。



成果 収益と工賃の向上を両立

農林水産業

- 作業単価の2度の値上がりにも関わらず、福祉施設がにんにくの農作業を最優先で協力するため、農家から好感を得ています。
- 2019年度から県に「農福連携技術支援者(農業版ジョブコーチ)制度」が誕生し、参加施設への支援活動を始めました。

障害者等

- 新しい参加施設も増えてきたため、マニュアルを活用したり、新しい作業にも取り組んだりしています。
- 農業収益と工賃が上がっています。

地域

- 通年で作業依頼に応えることができ、施設は安定した支援ができ、地域貢献につながっています。

全国農業協同組合連合会大分県本部（大分県大分市）

きめ細かいマッチング

コーディネーターとして品目ごとに中心となる事業所とJAをマッチングしています。障害者だけでなく、主婦や学生、ニート、失業者などすべての国民が農業参加しやすい仕組みを目指しています。



概要 農業へのハードルを下げる

JA全農おいたは、2015年から農業の人手不足に対応するため、共同受注事務局の社会福祉法人太陽の家とパートナー企業の株式会社菜果野アグリとともに労働力支援事業を行っています。作業の細分化・現金日払い・勤務日数の弾力化・現場への送迎によって働くハードルを下げ、多様な人材を確保して

います。2018年度末時点で40事業所がJAと年間契約を結んでいます。障害者と健常者の双方を活用して農家のニーズを満たす外部委託システムが完成。このシステムは18年度の内閣府の「地方創生」事例調査の対象に選ばれました。



成果 障害者と健常者が補い合う

農林水産業

- 農福連携と補完し合う、2019年度の支援者数は、のべ21,349人にのびります。コロナ禍で、生活困窮者や他業界からの人材を受け入れています。

障害者等

- 障害者が担えない部分は健常者がサポートすることで活躍の場が大幅に広がりました。

地域

- 人口減少中の日本では、生産年齢人口をすべて戦力とする必要があります。農業に関わるハードルを下げることで一直線に専業農家を目指せない人でも田園回帰を可能とすることで地方創生を進めています。
- この「大分モデル」を全国水平展開し、農業関係人口を増やします。

一般社団法人 松島のかぜ（宮城県松島町）

震災復興めざす

東日本大震災からの地域農業と水産業の復興に向けて同法人を設立しました。障害者の就労を確保し、安定化させています。多様な人びとの力によって地域の農業と水産業の再生を図っています。



概要 米・野菜・牡蠣を育てて売る

東日本大震災による障害者の失職と、離農による労働力不足を背景に、松島町と宮城県の指導のもと「一般社団法人松島のかぜ」を2013年8月に設立しました。定員20人の就労継続支援A型事業所として、農業と漁業を営む松島町の有限会社F・F磯崎に労働力を提供しています。F・F磯崎が経営する田畑

合わせた56％の農地と、むき身10トンを生産する牡蠣養殖場で18人が働いています。宮城県庁の産直販売会で米や野菜を対面販売するほか、松島町内のスポーツ施設清掃作業、近隣の農家や牡蠣養殖業者からの委託作業も受けています。



成果 震災前レベルまで回復

農林水産業

- 震災直後、農家数が減り、極端な労働力不足から地域農業の維持が困難でした。農業や漁業を営む有限会社F・F磯崎などへ障害者を定期就労させることで、地域の農業と漁業の産出額は震災前の水準に回復しました。

障害者等

- 農業と漁業で年間を通して作業があり、利用者は5時間勤務で月7～10万円の工賃を得ています。
- 産直販売会やホテルや飲食店への配達などを通じて、接客術を学び、これまで10名の一般就労者が誕生しました。優良な職業訓練の場として広く認知されています。

地域

- 例年、F・F磯崎とともに松島灯籠流し花火大会、みやぎまるごとフェスティバルなどの地域交流イベントに出店や販売で参加し、地域活性化に大きく貢献しています。

社会福祉法人 こころん（福島県泉崎村）

養鶏場を受け継ぐ

耕作放棄地を再生したり、経営の継続が困難となった養鶏場を継承したりしています。直売所の運営にもかかわることで、障害者の通年での就労が実現されています。食の安全にも取り組み、JGAP 認証を受けています。



概要 オーガニック野菜・鶏の平飼いにこだわる

多機能型事業所を経営しています。主に精神障害者など利用者30人が養鶏のほか、野菜の栽培・加工、直売所の運営などに携わっています。
直売所の運営をきっかけに、地域の農家とつながり、自社での野菜生産から養鶏にまで発展してきました。

2009年から再生させた耕作放棄地を含め3.5%の農地で、無農薬・無化学肥料のオクラ、キクイモなど50品目の野菜や水稻を栽培しています。
高齢のために継続が困難になった養鶏場を引き継ぎ、平飼いで約1,000羽のニワトリを飼育しています。



成果 大型スーパーにも出荷する

農林水産業

- 2017年に青果物（玉ねぎ・キクイモ・さやえんどう）で、19年に畜産（養鶏）でJGAPを取得しました。
- 地元スーパー 4店舗の地場産コーナーに加え、福島の県南・県中にある大型スーパーへ販路を拡大しています。

障害者等

- 農業を通して体力や忍耐力が付き、欠勤や服薬が減ったり、一般就労につながったりする事例があります。
- 安定的に働けるので、収入が増え、家族との関係が良くなっています。

地域

- 直売所は地場野菜などの販売だけでなく、利用者の働く場や地域住民の憩いの場として機能しています。
- 地域イベントへの参加で、ネットワークがより強固に。
- 障害者が一生懸命働く姿を見る機会が増えて、偏見や差別的な態度がほとんどなくなっています。

埼玉福興 株式会社（埼玉県熊谷市）

誰も排除しない

ソーシャルファームの理念のもと誰も排除しない組織として、触法障害者なども受け入れています。農家300件分のネギ苗作りをはじめ、水耕や露地で野菜を栽培しています。地域農業の中心的な役割を担っています。



概要 赤城おろし経済圏を成す

最初は個人農家からスタートし、その後、農業生産法人、認定農業者、就労支援B型事業所になりました。持続可能な農業に取り組んでいます。
他の6障害者施設とともにネギ苗などの生産を行い、「赤城おろし経済圏」をつくっています。

仕事に人を合わせるのではなく、重度の知的障害、精神、身体、発達障害など、人それぞれに仕事を合わせることですべての障害者に働く場を提供しています。
福祉が入って農家を支える、地域になくてはならない施設です。



成果 見学者も断らない

農林水産業

- 水耕栽培、施設栽培、果樹、野菜は品目を絞り、年間365日の農作業と出荷を実現しています。
- 地域農家との信頼ができたため、農地の借用依頼を可能な限り受けています。
- 2018年にASIAGAPを取得し、16年には国際オリーブオイルコンテストで金賞を受賞しました。

障害者等

- 自社雇用、特例子会社との連携などで、4人が就職できました。触法障害者2人の受入れ雇用を斡旋し、再犯なしで15年勤務しています。

地域

- 福祉、農業、オリーブ、ソーシャルファーム、教育、グループホーム、社会的企業、共同研究、卒業論文など幅広い目的の見学者を全国から受け入れています。
- 学校給食への納入をはじめました。

認定・特定非営利活動法人 UNE（新潟県長岡市）

どぶろく造りも

薬用作物などの栽培だけでなく、食品加工、農家レストラン、農家民宿、どぶろく造りと幅広く手がけています。障害者をはじめとする多様な人びとの雇用を創出し、地域活性化に貢献しています。



概要 12事業に広がる啓発事業も

2011年4月、障害者地域活動支援センター UNEHAUSを、その後UNEを設立しました。2012年から135㌦の農地で本格的に農業をはじめました。職員7人、障害者や高齢者、生活保護受給者ら8人が、米や野菜の栽培のほか、「福祉市民体験農園 OasisR」の運営など12事業に取り組んでいます。市内の建設

関連会社に依頼し、「特例子会社夢ガーデン」が2012年3月に設立。聴覚障害者1人が就職しました。同社ではヨモギや花ハス栽培、野菜の加工で協働しています。2020年度にその啓発のため農福連携サポーター養成講座を開講。



成果 クロモジ栽培で山林を整備する

農林水産業

- 2012年にNPO法人として県内初の農業参入。認定農業者となり、中山間地域の農業の担い手になっています。
- 2015年からクロモジの栽培に加え、計画的に山林のクロモジを採取し、医薬品製造会社に出荷しています。
- 2017年からはクロモジ茶とクロモジオイルを製品に。その収益は、山林の整備に役立っています。
- ヨモギの導入は、誰もができる作業を増やしました。条件の悪い農地も活用できています。

障害者等

- 多角的な事業によって、障害者や高齢者などそれぞれの特性に応じた作業ができています。

地域

- レストランや民宿の機能があると、地域外からの訪問者やインターン生も利用します。交流機会の増加が、利用者の生きがいにもつながっています。

特定非営利活動法人 ピアファーム（福井県あわら市）

直売所も経営

耕作放棄地の再生や、後継者不足で悩む梨園を受け継ぎ、梨とぶどうを栽培しています。直売所を運営することで、障害がある人の働く場所の確保と高工賃を実現しています。



概要 加工・輸出で6次産業化を果たす

2002年から坂井北部丘陵地の耕作放棄や梨園の廃業の課題解決と障害者就労の場づくりを目的に挑戦をはじめました。果樹栽培とともに、農産物販売にも力を入れて、高収益化を図っています。2か所の就労継続B型事業所を運営し、直売所とスーパーマー

ケット経営しています。梨園では幸水など12品種、10年からは22品種のぶどう栽培を開始。梨のゼリーやジュースを製菓業者と共同開発したり、受託製造したりしています。アジアGAP認証を取得し、ヤマト運輸の支援で東南アジアへ梨やぶどうの販路を拡大しています。



成果 放棄地を再生し、梨園を引き継ぐ

農林水産業

- 耕作放棄地の再生によって農地を集約しました。2㌦を再生し、後継ぎのない梨園を引き継ぎました。
- 11年9月あわら市の「認定農業者」になりました。

障害者等

- 果樹栽培と食品加工、その販売によって、働く場所が確保でき、工賃が増えました。

地域

- 特産品である梨を受け継ぎ、新たにぶどう栽培に取り組むことで、地域活性化に貢献しています。
- 直売所では160の契約農家の農産物や加工品を販売。地産地消と商店街のにぎわいに一役買っています。
- 商工会や観光協会と連携して6次産業化、観光化へ踏み出しています。

株式会社 シルクファーム（鳥取県米子市）

多様な連携を図る

耕作放棄地の再生を行うとともに、NPO法人山陰福祉会と協力して施設外就労の確保を図っています。さらに株式会社クボタと共同でスマート農業に取り組むなど多様な連携を実践しています。



概要 スマート農業で環境を整える

2015年度から耕作放棄地再生事業をはじめました。米子市内の耕作放棄地25㌔を整備・改修して農場や関連施設を設置。NPO法人山陰福祉の会が運営する障害者就労継続支援B型事業所の利用者が、農産物の生産と選果・パック詰めをしています。

19年度に株式会社クボタの協力を得て、障害者就労の利便性・安全性・効率性を高める目的でスマート農業システムを導入しています。グループ会社の株式会社KOGANEは、シルクファームでできた農作物を原料とするスイーツを開発し、境港市の飲食店3店舗で販売しています。



成果 ユニバーサル就労で農地を再生

農林水産業

- 2015年度から米子市弓ヶ浜半島で「ユニバーサル就労による耕作放棄地再生事業」を行い、現在までに25㌔の耕作放棄地を再生しています。

障害者等

- 連携する就労継続支援B型事業所ののべ1,855人が就労し、19年度の工賃時給は前年度比3.5%増えました。

地域

- 新たに「いちご観光農園」「ミニトマト園」「さつまいも圃場」を整備しました。新しい特産品は、高齢者、障害者を含む7人の地域雇用を生みました。
- シルクファームの農産物を原料としたスイーツは、境港市「水木しげるロード」内の3店舗で販売し、観光振興に貢献しています。

社会福祉法人喜和会 障害者支援施設 太陽の里（島根県出雲市）

輝く地域の一員

障害者が「地域の一員として一人ひとりが輝ける」ことを目的に、特産品である出西生姜の産地維持、作業を請け負う「せわやき隊」などに取り組む、地域から厚い信頼を寄せられる存在になっています。



概要 せわやき隊が地域を支える

開所当時から農業を行っていましたが、農業以外の木工などを辞め、2012年から農業に専念しています。利用者37人、職員11人の就労継続支援B型事業所です。出西生姜の栽培を農家から引き継ぎ、また「せわやき隊」として収穫調整、堆肥散布などの作業を請けています。

近隣の4つの就労支援事業所と共同でトマトのミックスソースを生産しています。安定生産や作業の分散を目的に、トマト栽培やジュース作りの工程は委託しています。生活介護では、野菜の袋詰め、洗浄、白むき、規格分けなどの調整作業を行っています。



成果 作付面積は地域トップクラス

農林水産業

- 開設以来34年、農業を真面目に続けることで地域で生産者として認められるようになりました。
- 受託農地の拡大に伴い、栽培品目を増やしています。玉ねぎ170㌔・キャベツ80㌔・白ネギ30㌔は、地域トップクラスの作付面積です。
- 「せわやき隊」は高齢農家や地元農事組合からの依頼が増え、その迅速な対応は好評です。

障害者等

- 農作業の工程を細分化することで、それぞれの得意分野で活躍できるようになりました。
- 2019年度の平均工賃は25,000円超で、県平均を大きく上回りました。月7万円以上の利用者もいます。

地域

- 地域の清掃活動や農業にかかわるイベントに積極的に参加したり、「地域交流会」を開いたりしています。

ノウフク・アワード2020 表彰式案内



昨年度のノウフク・アワード2020表彰式&ノウフク・シンポジウムの模様は、URLまたはQRコードからご覧いただけます。

●前編

<https://youtu.be/RaGjS19EL0c>



●後編

<https://youtu.be/Dpiy6SQkiB0>



審査員紹介



中嶋 康博

東京大学大学院
農学生命科学研究科 教授



濱田 健司

一般社団法人JA共済総合研究所
主席研究員



松森 果林

ユニバーサルデザイン
アドバイザー



村木 厚子

津田塾大学
総合政策学部 客員教授



米田 雅子

東京工業大学
環境・社会理工学院特任教授

お問い合わせ

農福連携等応援コンソーシアム事務局

■ 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話 03-3502-8111(内線5448)
メール noufuku@maff.go.jp

■ 一般社団法人日本基金
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号
電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117
メール info@nipponkikin.com

農福連携等応援コンソーシアム

設立の経緯

2019年6月に農福連携等推進会議（議長：内閣官房長官）において決定された「農福連携等推進ビジョン」に提起されている課題の1つ「農福連携が広がっていない」に対応するため、2020年3月に農福連携を全国的に広く展開させ、各地域において農福連携が定着していくことを目指して「農福連携等応援コンソーシアム」が設立されました。

このコンソーシアムは、全国初の官民連携ノウフク応援団として、国・地方公共団体、関係団体等や、経済界や消費者、さらには学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を応援する取り組みであり、2022年2月現在、約170の企業・団体の方が「ノウフク」の活動趣旨にご賛同いただき、活動の幅を広げています。

農福連携等応援コンソーシアムへの参加

本コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、本コンソーシアムの趣旨に御賛同いただき、参加いただける団体や企業の方の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会に取組の輪の拡大に向けて、入会をお待ち申し上げております。（全国団体は会員、個別企業・団体は賛助会員となります。）

入会方法

コンソーシアムに関する詳細は、ノウフクWEBをご覧ください。

コンソーシアムへの入会をご希望される団体や企業の方は農福連携等応援コンソーシアム規約に同意いただき、以下申込書に必要事項を記入の上、農林水産省農村振興局都市農村交流課 農福連携等応援コンソーシアム事務局までお申し込みください。幹事会の承認を得て、コンソーシアムにご入会いただくことができます。

● 農福連携等応援コンソーシアムについて

<https://noufuku.jp/consortium/>



農福連携等応援コンソーシアムの規約、入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードいただけます。